

2018 年度日本天文学会天文教育普及賞

【受賞団体】 プラネタリウムの会

【活動名】 地域施設を活用した長期的な天文教育普及活動に対して

日本全国には 300 を超えるプラネタリウムがあり、子どもから大人まであらゆる世代に天文学を学ぶ機会を提供している。最近ではデジタル技術を取り入れた新しい施設も多くなり、人気のスポットになっている場所も多い。一方で、機械の老朽化とともに、運営のための人材を配置できず、ほとんど活用されなくなっている施設も少なくない。こうした場所では、熱心な人々の積極的・献身的な活動により施設設備の活用を持続させ、天文教育の普及の役割を果たしている例がある。

「プラネタリウムの会」(能勢俊勝代表)は、山口県山陽小野田市を拠点として活動をおこなうグループである。山陽小野田市が運営する研修施設「青年の家」に附属する「天文館」には、1966 年にミノルタ製(現コニカミノルタプラネタリウム)のプラネタリウムが設置された。この投影機は国産機としては最も古い機械のひとつである。設置後の時の経過や諸般の事情から、1986 年頃には、専任の担当者が配置されずほとんど活用されない状況となり、この状況は数年続いた。そこで、このプラネタリウムを活用し、天文教育普及を行うことを目的に「プラネタリウムの会」が結成された。1990 年ごろからは現在の能勢代表の元、定期的に「星の教室」を開講しており、地域の人々が天文学にふれる貴重な機会となっている。2017 年度には 9 回の教室を実施し、小学生とその家族を中心に 438 人の参加があった。また、星の教室以外にも要望に応じてプラネタリウムの投影を行うなど、専属の解説員がいない同館における天文教育普及活動を、教員・会社勤めなど職業はさまざまな方々からなる「プラネタリウムの会」がボランティアとして担っている。さらに、2015 年から 3 年 3 か月にわたって実施された全国プラ「レア」リウム巡りという全国の珍しいプラネタリウムを巡る企画にも 33 館の一つとして参加し、全国のプラネタリウムファンのために公開活動を広げた。

建物は古く、2020 年以降に解体される予定とのことで今後のことは定かではないが、「プラネタリウムの会」が、地域施設を活用し、地域に密着した地道な活動を 30 年近い長期間にわたり継続して行っていることは、十分表彰に値する。また、地域で教育活動を支えるアマチュア天文学家や団体の励みにもなり、このような活動が市民に支えられて続けられることに大きな価値があると考えられる。以上の理由から、「プラネタリウムの会」に 2018 年度日本天文学会天文教育普及賞を授与する。